



- 自分で考え進んで実践する人間
- 公共心に富み情操豊かな人間
- 勤労を尊び責任を重んじる人間
- 健康でたくましい人間

『感謝』の気持ちを伝える

校長 関 勝 志

3年ぶりに修学旅行が実現しました。感無量です。とても楽しく充実した、奈良・京都での3日間でした。そして随所に、3年生の『感謝』の気持ちが感じられました。挨拶はもちろんのこと、笑顔や受け答え、お寺や神社の参拝、法話や坐禅や抹茶の体験、お土産やお土産話、そして宿の食事をお美味しくたくさんいただいたことや、規律正しく健康に過ごしたことも、『感謝』の気持ちの表れだったのではないかと思います。修学旅行の作文にも、多くの生徒が『感謝』の言葉を綴っていました。

修学旅行最終日の朝のことです。ある生徒がわざわざフロントまで行って、宿の方に「ありがとうございました」とお礼を言ったそうです。誰に言われるでもなく、『感謝』の気持ちが込み上げて自然に行動したのだと思います。宿の方からこの話を聞いて、「粋な振る舞いだな」と感動しました。粋な振る舞いとは、自然で飾らない、さりげない気配りのことです。

人はどんなときに『感謝』を感じるのでしょうか。困っているときに助けってもらったり、気分が落ち込んでいるときに優しく声をかけてもらったり、自分の気持ちに共感してもらったりしたときには、当然のことながら『感謝』を感じることでしょう。しかし、特別なことがなく、普段の生活の中でも、『感謝』を感じる場面はたくさんあると思います。

『感謝』の気持ちは、その人の感性（感じ方や気付き）によって異なります。身の回りの環境や出来事をあたりまえと思ってしまえば、また自分のことばかり（利己的に）考えていると『感謝』の気持ちは湧いてきません。今の自分があるのはたくさんの人に支えられているからと思うことや、みんなの幸せを大切に（利他的に）考えることによって『感謝』の気持ちが芽生えます。

「経営の神様」と呼ばれた稲盛和夫さんが、8月にお亡くなりになりました。京セラとKDDIの創業者で、経営破綻したJALの奇跡的再建を成し遂げた人物です。稲盛さんは、心の在り方が人生に大きく影響すると考え、「利他的な考え方と行動」を人生哲学とし、『感謝』の気持ちを大切にしていました。

社内に人の和がないと、お客様に喜んでいただけるものはありません。なぜなら製品にはそれをつくる人の心が反映されているからです。ところが「オレがオレが」といった利己的な考え方では、社内に和をつくっていくことはできません。

私たちが今日あること、そして存分に働けることは、お客様や取引先はもちろん、職場の仲間、家族といった周囲の多くの人々の支援があるからこそです。決して自分たちだけでここまでこられたわけではありありません。このことを忘れず、常に周囲への感謝の気持ちを持ち、お互いに信じあえる仲間となって仕事を進めていくことが大切です。（稲盛和夫 OFFICIAL SITE より抜粋）

私たちは『感謝』の気持ちをきちんと伝えているでしょうか。面と向かって「ありがとう」と言うのは少し照れくさいものです。また、伝えるタイミングを逃してしまうこともあります。でも、『感謝』の気持ちはただ自分の心の中で温めておくのではなく、表現し伝えることが大切です。なぜなら、『感謝』の気持ちは共有（シェア）することでお互いに幸せな気持ちになれるからです。そしてさらに、一つの『感謝』が次の『感謝』を生み出し、連鎖していくものです。

生活範囲や行動範囲が広がるのに伴って、様々な人たちとの関わりが増えていくこととなります。また会えるとは限らない出会いもあります。あの時『感謝』の気持ちをきちんと伝えておけばよかったと後悔することもよくあることです。あまり遅くならないうちに、『感謝』の気持ちを自然に伝えることが大切です。

そして、最も身近な家族へ、素直に『感謝』の気持ちを伝えることも、決して忘れてはいけません。



■10月8日（土） 体験学習の日■

今年度、本校では体験的な学習の充実を図り、10月8日（土）を「体験学習の日」と位置づけています。キャリア教育の一環として、学年ごとのプランで体験学習を実施します。当日、体験に参加できない生徒については、カルガモ教室において、体験の様子（1・3年生）をLIVE配信で視聴することもできます。

1年生は、各クラスで「国内留学プログラム ～ゲーム de 多文化理解～」を実施します。様々な国からの留学生が各班に一人ずつついて、少人数での英語によるコミュニケーション活動を行います。異国文化をゲーム形式で学んだり、留学生の国のことについて学んだことをグループで発表したりします。英語を「教わる」ではなく、「伝わる楽しさを感じる」プログラムなので、英語が苦手な生徒でも楽しめます。他国の人たちと楽しい時間を過ごしてほしいと思います。

2年生は、職場体験の代替えとして、お仕事体験を実施します。立川市にある東京保育医療秘書専門学校において、保育・医療事務・ホームページ制作・調理・スポーツトレーナー・介護・美容の中から希望調査で割り当てられた4つの仕事について、仕事のやりがいや内容を学び、実際に体験します。将来の夢や進路の目標を考えるきっかけになるような体験にしてほしいと思います。当日は、班ごとに国分寺駅に集合してから現地まで移動し、体験終了後も国分寺駅で解散します。

3年生は、ライフプランニング授業を実施します。ソニー生命のファイナンシャルプランナー2名を講師として、各クラスで人生設計の授業を行います。生きていくためにはどれくらいのお金が必要なのか、生活費や教育費、お小遣い、レジャー、社会保険、税金のことなどについて学びながら、これから先の長い人生における自分の夢やありたい姿を描くことで、人生を計画的に生きることの大切さや、夢に向かって努力することの大切さを感じることを目的とした授業です。

■特別支援教室「一橋」について■

一橋学級主任 三瓶 順一郎

特別支援教室「一橋」は、平成26年度に通級指導教室として四中に設置されてから6年後に特別支援教室に移行し、3年目を迎えています。「一橋」は、通常学級に在籍し、学習上または生活上の不安があり、支援を必要とする生徒が学習しています。現在、拠点校として、4校（一中、二中、四中、五中）あわせて、52名の生徒が通室しています。生徒の苦手さや困難さを把握し、個々の生徒や保護者が抱えている困り感や課題に対する指導・支援に取り組んでおります。

「一橋」は、学校全体の特別支援教育を推進する役割も担っています。「発達障害の理解」及び「授業内におけるユニバーサルデザインの推進」という内容の校内研修会を行いました。教職員からは「発達障害や、その支援方法について理解できた。」「支援の方法などより具体的に考えられるようになった。」などの感想があり、特別支援教育についての理解をより深めることができました。

「一橋」に通室していないお子さんでも、学習上または生活上の不安があり、相談などがございましたら、右のQRコードから、お問い合わせフォームをご利用ください。また、四中のホームページに、詳しい内容を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



■生徒の活躍■

陸上競技部 東京ジュニア男子共通走り高跳び6位 中山 徳浩

東京ジュニア女子1・2年砲丸8位 芦澤 仁香

剣道部 小平市民体育祭中学2・3年女子の部3位 飯島 芽依

水泳部 学年別水泳大会1年男子50m自由形8位 窪田 悠希

ソフトテニス部 第10ブロック夏季1年生大会5位 畑野・井口組

ピアノ ピティナ・ピアノコンペティション東日本E級4地区 優秀賞 沖田 怜美



【電子メールによる学校へのご連絡等について】

現在、欠席や遅刻等の連絡について、「連絡フォーム」を利用していただいておりますが、長文を入力すると送信エラーとなってしまい、学校でもチェックできないことが分かりました。これまでに保護者の皆様からいただいたご連絡につきましても、送信エラーのため学校で確認できなかった可能性もあります。大変申し訳ありませんでした。

長文（100字を超えるような連絡）の場合、学校代表メールアドレス（gakkou@34.kodaira.ed.jp）に送信していただきますようお願い申し上げます。